



島の周囲には、特徴ある形をした岩や、大小の小島が点在し、多くの伝説が残されている。

海に生きる人々によって
培われてきた歴史と文化。



飛島の南側海岸はほとんどが岩場で、海岸遊歩道からは、マンモス岩やローソク岩などの風景を楽しめる。

WHAT'S "GEOPARK"
飛島も認定された
『ジオパーク』とは
「地球・大地(ジオ)」と「公園(パーク)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味する。地球を学び、丸ごと楽しむことができるエリアのこと。

思議なの?」と思われる方もいるかもしれない。ここで言う不思議とは、多様性という言葉に置き換えることができる。多くの不思議が生まれる、多様性のかたまり、それが飛島なのだ。今回はその飛島が内包する様々なストーリーを見ていこう。少しでも興味が生まれたなら、ぜひ足を運んでみていただきたい。きっと新たな発見が、あなたを迎えてくれるはずだから。

昨年、鳥海山・飛島・ジオパークとして
日本ジオパークに認定され、
今後さらなる展開が期待される飛島。
「学び」の視点から、その魅力に迫ります。

ABOUT "TOBISHIMA"

漁業が盛んで釣り客も多い
山形県唯一の有人島

島の人口
208人
飛島の人口は、208人(2017年6月30日現在)。人口減少や高齢化は現在も進んでいるが、島の素晴らしい景色に魅せられた若者など、様々な層のUターン者がここ数年増え、新たな生き方に挑んでいる。

焚き、豊漁・豊作を祈願する神事が行われてきたように、信仰の対象としても鳥海山の存在は常に側にあった。このように、大地の営みを体感しながら自然に触れることができ、そこに住む人々の生活や文化などの深い関わり合いも、丸ごと楽しむことができる。それがジオパークの魅力であり、飛島がその認定を受けた理由でもある。

さらなる視点の広がりをも
教えてくれる多様性の島。

さて、「ふしぎの島」とはい
けれど、飛島の何がそんなに不



島の周囲には、海に洗われてできた海食台や海岸段丘が広がり、古い地層や断層が見られる場所もある。

ふしぎの島、飛島。

大地の多様性を感じさせる
海岸特有の岩や地層。

日本海に浮かぶ不思議
アイランド、飛島。

酒田港から北西へ39キロメートル。日本海に浮かぶ山形県唯一の離島、飛島は、里海・里山の自然と、昔ながらの島の暮らしの原風景が詰まった小さな島だ。最標高68メートルのテール状の地形で、南北の道路距離が約4キロメートルと、散策やサイクリングをするには丁度良い広さだ。

山形県内に住んでいても、島を訪れたことのある人は、いや、

南北の植物が混生する
島特有の豊かな自然。

島に着いて最初に出会う
独特の景観とその美しさ。

飛島は、日本海を南北に連なる海底山脈の頂上に相当する。海底火山から吹き出した噴出物が海底に積み重なり、

盛り上がりながら波や風雨に削られて現在の姿となった。そのため、多様な地形が入り組んでおり、少し歩いただけで岩場や海岸線などの景観が、がらりと変わる。また、北緯39度という高緯度に位置しながら、暖流・対馬海流の恩恵を受けているため、年間平均気温は12度と暖かく、南と北の動植物が混生

する特徴的な生態系を築いている。その豊かな自然を目当てに、ウミネコが繁殖に訪れ、渡り鳥が羽を休めに立ち止まり、多くの太公望が訪れる絶好の釣りスポットにもなっている。

生活・文化とともに
醸成されてきた島の歴史。

島には縄文時代前期からの遺跡が存在し、江戸時代には北前船の西廻り航路として、風待ち港や避難港として利用され、海上交易による文化の中継点として重要な役割を果たした。そうした海を生業とする人々によって培われた漁村の



WHAT'S "TOBISHIMA"

『飛島』は山形県沖の
日本海に浮かぶ島

総面積は東京ディズニーランドおよそ5.5個分。周囲は10.2kmで、徒歩なら約2時間10分で島を1周できる。飛島に行くため

の唯一の交通機関である定期船「とびしま」は、酒田ー飛島間を片道75分で結ぶ。

酒田港から
39km

鼻戸崎展望台から寺島、鳥海山方面を眺む。島の周辺は対馬海流の影響で、東北の海とは思えないほど温暖で透明度が高い。貴重なサンゴ類群生地もあり、コブダイやメジナなど南方系の魚も生息する。また、初夏にかけて産卵に訪れるドチザメの群れを観察でき、ダイバー達からも人気を得ている。

自然が作り出した造形は物語性あふれる見所。それを体感した先人は、様々な言い伝えを残しています。

飛島の見方が変わるかも？島に伝わるミステリー。

奥深き島、飛島に伝わるミステリーの数々。

数々の伝説が残り、語り継がれてきた飛島。その謎めいたストーリーと歴史を読み解くヒントになるのが、現在の島の姿だ。大地の活動が生み出した飛島の景観や、周囲の小さな島々に現れる地形や、周囲の環境から、その成り立ちだけでなく、「なぜそのような伝えられてきたのか」という物語の背景をも知ることができる。

ストーリーには島の人々の生きざまも表れる。

自然の景観に神や霊的なものを見出したり、「〜してはいけ



海の民にとって島と山は大きな目印。鳥海山と飛島、周囲の小岛を見て位置を確認するとともに、漁や航海の無事を祈願した。

ない」という決まりを昔から忠実に守ってきたりと、物語の随所からうかがい知ることができるのは、島の人々の信心深さでもある。飛島には神社が5社、寺院が2寺あり、様々な祭礼が受け継がれ、先に紹介した「火合わせの神事」の他にも、例大祭や大漁祈願祭などが各地区で行われている。危険と隣り合わせの海に生きる者にとって、「海上安全」「大漁満足」は切実な祈りであり、そうした生きざまも、言い伝えに滲み出ているのだ。

先人が残した物語を歩いて読み解く愉しみ。

このように、飛島に見られる多様な景観、自然が創り出した造形に、神秘と畏敬の眼差しを向けた先人たち。洞窟、浜、岬、岩、小島など、飛島には大地と人の物語が色濃く刻まれ、今、生きている我々も実際に体感することができる。知れば伝えとなる面白さのある飛島は、多くの発見と、学びに満ちているのだ。次頁では、言い伝え以外の学びのスポットについて見ていこう。

洞窟の中から謎の人骨を発見？

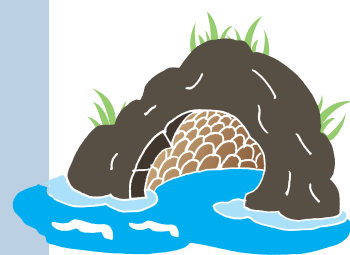
1 勝浦と中村の境界にある洞窟、「テキ穴」は、古くから神聖なところとされ「決して入ってはいけない」と、近寄ることが禁じられてきた。ところが、昭和39年に地元の中学生在が穴の中で人骨を発見したことを機に、事態は急変。中からは平安時代の人骨や土器が多数出土した。なぜそこに人がいて、隠れるようにに暮らしていたのか、その死因など、謎の部分が多く、様々な推測がされている。



流行病の人を遠ざけた説、「テキ穴」のテキは、えびすやえみしと読む「狄」であることから、エミシが住んでいた説、水難死者（エビス）を吊った場所という説などがある。

女人禁制の風習が残る、龍の棲む穴がある？

4 「御積島（おしゃくじま）」は、島の西方約1キロにある、標高75メートルの島。洞窟の内部には、黄金に光る龍の鱗のような岩肌が見られる。島では古くから、海神である龍神の住む聖地といわれ、島民や船乗りの篤い信仰を集めてきた。この鱗状の岸壁はウミネコの糞の成分の化学変化によるものと判明したが、この島で不思議なことが起こったという話は昔から尽きない。



島には船がないと行けず、原則立入禁止。御積島（右）の奥の洞窟は、遠賀美神社の御神体である。明神社は御積島を飛島から拝むための遙拝社（左）。

海賊が砦を築いて守っていた？

2 島の南方、巨大な一枚岩である館岩の崖上からは、勝浦港と勝浦・中村地区が一望できるが、ここには謎の石塁と、古代文字といわれる引つ掻き傷のようなもの彫られた石板がある。これは、島に住む海賊が、この地に砦を築いていたからではないかと言われている。



館岩から西海岸にかけては、噴出した溶岩が固まって波に洗われた、荒々しい景観が広がる。険しい見晴らしの良い場所は、確かに砦を築くのに最適な場所だろう。



賽の河原の積み石は崩しても元に戻る？

3 こぶしほどの大きさの丸石が大量に打ち上がった「賽の河原」は、島民は滅多に近寄らない場所。古くから死者の魂が集まる処と信じられている。積み石は崩してもいつの間にか元に戻るといわれ、その理由についても様々な考察がされている。



今、積み石のある場所は、昔の海岸線だったという。この丸石は鳥帽子群島にある安山岩と同じもので、かつて何らかの要因で石がここまで運ばれてきたと考えられる。

島と本土を結んだ橋桁が岩に？

5 西方沖に浮かぶ「鳥帽子群島」には、火山岩がゆつくりと冷え固まったときにできる、鉛筆のような六角形の柱状の割れ目「柱状節理」が見られる。島の人々が「材木岩」と呼ぶこの島々には、かつて飛島を訪れた弘法大師が、離れ島の不便を哀れんで島と本土の間につくった橋が崩れ、その橋桁が流れ集まったものだという伝説が残っている。



「鳥帽子群島」は火山活動でできた島々。伝説では「朝、一番鶏が鳴くまで橋を見にきてはならぬ」という約束を破った人々に怒った弘法大師が橋を崩したという。

